

# ホッキガイ稚貝発生量調査

福島県水産試験場栽培漁業部  
平成15年度事業報告書

## 1 部門名

水産業－資源管理－ホッキガイ  
分類コード 19-04-5500000

## 2 担当者

佐々木恵一

## 3 要旨

本県沿岸のホッキガイ稚貝（以下稚貝と表記）は平成5、6年の大量発生以降、ほとんど発生はなかったが、平成15年は漁協の稚貝調査や、試験場の漁獲調査の混獲などで稚貝の発生を確認した。そこで全県的な発生状況を把握するため採捕調査を行った。

- (1) 漁協、試験場の調査で稚貝が採捕された海域は、勿来、四倉、新舞子、請戸、磯部で、相馬からいわきの広い海域に分布していることを確認した。
- (2) 相馬からいわきにかけて計42地点で採捕調査を行い、その中の16地点で稚貝の発生を確認した。
- (3) 発生密度は最も多い地点で7,800個/㎡、最も少ない地点では13個/㎡で、発生を確認した16地点の平均をとると約972個/㎡となった。相双海域といわき海域を比較すると、相双海域の平均発生密度は308個/㎡、いわき海域の平均発生密度は1,399個/㎡でいわき海域の発生密度が高かったが、平均殻長を比較すると、相双海域が10.9mm、いわき海域が3.9mmで、生息密度の低い相双海域の方が大きかった。
- (4) 今回と同様に平成3年、いわきの四倉海域で大量発生があり、8月の調査では44,000個/㎡、平均殻長2.5mmの稚貝の発生を確認したが、12月には500個/㎡に減少、平均殻長は3.4mmと成長も遅く、最終的に漁獲対象にならなかった。平成15年に発生した稚貝も生息密度の高い水域では、殻長2～3mmのものが多いことから、今後の生残、成長を追跡調査する必要がある。

## 4 その他の資料等

なし